

第 8 章

シエラレオネ紛争関連年表

落合 雄彦

はじめに

わが国の学術研究の世界、特に政治学や経済学といった社会科学の分野において、西アフリカの小国シエラレオネは、アフリカ諸国のなかでも特に注目されてこなかった国の一つといえるかもしれない。筆者の知る範囲では、少なくとも 1980 年代末まで、シエラレオネが新聞や雑誌の記事などに取り上げられたり、アフリカ概説書などのなかで言及されたりすることはあっても¹、同国名を冠した社会科学系の本格的な学術論文や学術図書はほぼ皆無といってもいい状況にあった。

ところが、1990 年代に入って、わが国の学界においても、シエラレオネへの関心がにわかに高まりをみせるようになる。その重要な背景となっていたのが、1991 年 3 月に勃発して以来今日もなお完全終結にはいたっていないシエラレオネ紛争である。とはいえ、わが国におけるシエラレオネ紛争研究はまだ端緒についたばかりであり²、次世代の研究のための基盤となりうるような骨太の本格的な研究成果は依然としてみられないのが実状である。

本資料は、わが国におけるシエラレオネ研究、特にシエラレオネ紛争研究に資することを主眼に作成された年表である。本資料は 3 つの節から構成されており、第 1 節が「シエラレオネ紛争前史年表」、第 2 節が「シエラレオネ紛争史年表」、そして、第 3 節がそれら 2 つの年表をよりよく理解するための「補足資料」とな

¹ たとえば、中村[1982]。

² たとえば、栗本[1999]、榎林[2001]、落合[1999, 2000, 2001]。

っている。

第1節の「シエラレオネ紛争前史年表」は、15世紀中葉のポルトガル人の来航から紛争勃発前夜までの主要な事件等をまとめたものであり、いわば「シエラレオネ小史年表」ともいうべき内容となっている。同年表の作成にあたっては、Fyfe[1962]などを主に参考にした。

第2節の「シエラレオネ紛争史年表」は、1991年から2001年までの時期の紛争関連の事件をもとめたものであるが、単にシエラレオネ国内の出来事ばかりか、国連、西アフリカ諸国経済共同体（Economic Community of West African States: ECOWAS）、欧米諸国などの紛争対応についても適宜記した。同年表の作成にあたっては、国連資料、*Africa Research Bulletin: Political, Social and Cultural Series*、*Africa South of the Sahara*、そしてシエラレオネ紛争に関する極めて有用なインターネットサイトである Sierra Leone Web (<http://www.sierra-leone.org/>) などを参考にした。

そして、第3節の「補足資料」では、年表に登場する選挙の詳細なデータ、シエラレオネ紛争における国連平和維持活動の要員構成と推移、組織名などの略号、地図をまとめた。同節資料の作成にあたっては、国連資料、Alie[1990]、Nohlen et al.[1999]などを主に用いた。

第1節 シエラレオネ紛争前史年表

1. 独立まで(～1961年)

年 月日

- 1447 ポルトガル人航海士アルヴァロ・フェルナンデス(Alvaro Fernandez)がロケル(Rokel)の入り江に錨をおろす
- 1462 ポルトガル人ペドロ・ダ・シントラ(Pedro da Cintra)が現在のシエラレオネ半島を「ライオン山地」(Serra Lyoa)と呼ぶ
- 1562 イギリス人奴隷商人ジョン・ホーキンス(John Hawkins)が現在のシエラレオネにあたる地域に到着して奴隷を獲得
- 1579 イギリス人奴隷商人フランシス・ドレイク(Francis Drake)が到着
- 1605 ポルトガル人のイエズス会士バルタサル・バレイラ(Balthasar Barreira)が定住
- 1610 バレイラ去る。しかし、その後もイエズス会士やカプチン会士による布教が続く
- 1664 タッソ島(Tasso Island)にあるイギリスの城砦がオランダのド・リュイテル(de Ruyter)提督に攻撃される
- 1672 イギリス王立アフリカ会社(Royal African Company)創立
- 1704 フランス軍艦がヨーク島(York Island)にある王立アフリカ会社の城砦などを破壊
- 1719 王立アフリカ会社はベンス島(Bence Island、のちに Bunce Island あるいは Bunce Island とも呼ばれる)に拠点を移転。海賊がベンス島を占拠して略奪を行う(～1720年)
- 1726 王立アフリカ会社がウィリアム・スミス(William Smith)をベンス島に派遣
- 1727 フータ・ジャロン(Futa Jallon)のジハード始まる
- 1728 アフロ・ポルトガル人のロペス(Lopez)がベンス島の城砦を襲撃して破壊。これに伴い、王立アフリカ会社はシエラレオネを撤退
- 1750 王立アフリカ会社がベンス島に残した城砦がグラント・サージェント・アンド・オズワルド社(Grant, Sargent and Oswald)の手に渡る
- 1772 フランス人商人がブンス川河口にあるガンビア島(Gambia Island)に拠点を置く。奴隷身分のジェームス・サマーセット(James Sommerset)がイギリスで裁判を起し、自由を勝ち取る。マンズフィールド卿(Lord Mansfield)が奴隷制は非合法であると宣言
- 1771 民間生物研究者ヘンリー・スメスマン(Henry Smeathman)がバナナ諸島

- (Banana Islands) を訪れる
- 1779 フランスがブンス島のイギリスの城砦を攻撃
- 1785 ロバナ (Robana) のテムネ (Temne) 人首長がフランスに商館として使用する土地をガンビア島内に提供。フランス部隊が一時駐屯したがのちに撤退。イギリスが本国での刑務所過密状態を解消するために服役囚を西アフリカに移動することを検討するようになり、シエラレオネが候補地の一つに挙げられるが断念
- 1786 イギリスで奴隷貿易廃止促進協会(Society for Effecting the Abolition of the Slave Trade) がグランヴィル・シャープ (Granville Sharp)、トーマス・クラークソン (Thomas Clarkson)、ヘンリー・ソントン (Henry Thornton)、ウィリアム・ウィルバーフォース (William Wilberforce) らによって創設される
2. スメスマンが黒人貧困者救済委員会 (Committee for the Relief of the Black Poor) に書簡を送り、黒人移住希望者から一人当たり 4 ポンドを徴収し、シエラレオネ川付近に入植地を設置するように提案
- 1787 奴隷貿易廃止運動で活躍したシャープを中心に「自由の土地」(Province of Freedom) 建設をスローガンとしたシエラレオネ計画始まる
- 1787 4.8 290 人の黒人男性、41 人の黒人女性、11 人の黒人児童、70 人の白人男性、6 人の白人女性、38 人の乗組員らを乗せた船がロンドンを出港してプリマスへ向かう。その後、プリマスから 411 人を乗せた船がシエラレオネに向けて出港
5. リチャード・ウィーバー (Richard Weaver) が初代総督就任
- 5.10 イギリスからの入植者がシエラレオネに到着
- 5.11 T・ボールドン・トンプソン (T. Bouldon Thompson) 船長がトム王 (King Tom) から入植者のための土地を譲り受ける
- 5.15 イギリスからの入植者が下船し、シエラレオネに上陸。のちに、グランヴィル・タウン (Granville Town) 建設
9. ジェームス・レイド (James Reid) が総督就任
- 9.16 トンプソン船長らが乗った船がシエラレオネを出航
- 1788 6. イギリスからの入植者 5 人がバンス島 (Bance Island) で略奪
6. ジョン・ルーカス (John Lucas) が総督就任
- 8.22 ナインバナ王 (King Naimbana) が沿岸部を提供
- 1789 エイブラハム・アシュモア (Abraham Ashmore) が総督就任
- 1790 「自由の土地」の首都グランヴィル・タウンがジミー王 (King Jimmy) によって破壊される。奴隷制廃止主義者らがセント・ジョージズ・ベイ会社 (St. George's Bay Company) 創設

- 1791 セント・ジョージズ・ベイ会社が特許状をえてシエラレオネ会社 (Sierra Leone Company) となる。ヘンリー・ソントンが同社代表。アレクサンダー・ファルコンブリッジ (Alexander Falconbridge) が派遣され、入植者を保護。元とは違う場所にグランヴィル・タウン再建。イギリス海軍のジョン・クラークソン (John Clarkson) がシエラレオネ会社から英領ノヴァスコシア (Nova Scotia) とニューブランズウィック (New Brunswick) に派遣され、シエラレオネへの入植者を募る。クラークソンは、シャープが 1787 年に起草した憲法に基づいて、成人男性には 20 エーカー、妻には 10 エーカー、子供には 5 エーカーの土地が無償で提供されること、入植者の自治が保障されることなどを約束する (シエラレオネ会社の方針から逸脱)
- 1792 1.15 ノヴァスコシアからの入植者 1190 名を乗せた船団がシエラレオネに向けて出航
- 2.28 ノヴァスコシアからの入植者を乗せた船団の最初の船が到着。フリータウン (Freetown) 建設。クラークソンが総督就任。クラークソン総督が「シエラレオネのための祈り」 (Prayer for Sierra Leone) を唱える
- 12.30 クラークソンがシエラレオネを去る。ウィリアム・ダウズ (William Dawes) が総督就任
- 1794 ザッチャリ・マコーレー (Zachary Macaulay) が総督就任
- 9.28 フリータウンがフランスに拿捕された 7 隻の軍艦からの攻撃を受ける。フランス人がフリータウンを略奪・破壊し始める
- 1795 ダウズが総督就任。トーマス・クーパー (Thomas Cooper) がスス (Susu) 人やフラ (Fula) 人と通商するためにリオ・ポンガス (Rio Pongas) に商館「フリーポート」 (Freeport) を開く。バプティスト宣教協会 (Baptist Missionary Society: BMS) が 2 名の宣教師をシエラレオネに派遣。のちにロンドン宣教協会 (London Missionary Society: LMS) となる、プロテスタント超教派の宣教協会 (Missionary Society) が創設される
- 1796 イギリス政府がシエラレオネ会社に補助金を出し始める。マコーレーが総督就任
5. ジミー王死去
6. 植民地内において年間 1 エーカー当り 1 シリングの免役地代 (quit-rent) を課すとの発表がなされる
- 1797 グラスゴー宣教協会 (Glasgow Missionary Society) が 2 名の宣教師をシエラレオネに派遣
- 1799 マコーレーがフリータウンを去ってイギリスへ向かう。このとき、彼

- は 25 人の黒人男子
- と 4 人の 黒人女子をイギリスでの教育のために同伴。ジョン・グレイ (John Gray) が総督就任。クラパム派を中心としてイギリス国教会宣 教 協 会 (C h u r c h M i s s i o n a r y Society: CMS) 創設
- 1779
1. 免役地代を払った者の子弟のみが無償教育を受けられることになる
- 1800
- 不満を抱くノヴァスコシア人がシエラレオネ会社に対して反乱を起こす。シエラレオネ会社はノヴァスコシア人への信頼を失う
8. ジャマイカからノヴァスコシアに移されていた、元逃亡奴隷であるマルーン (Maroons) 550 名がシエラレオネに向けて出航
- 1801
- ウィリアム・デイ (William Day) が総督就任
- 11.18 コヤ・テムネ (Koya Temne) 人の武装集団がソーントン城砦 (Fort Thornton) を襲撃
- 1803
- トーマス・ラッドラム (Thomas Ludlam) が総督就任
- 1804
- CMS が 2 名のドイツ人宣教師をスス人などに対する布教のためにフリータウンに派遣
- 1805
- デイが総督就任
- 1806
- ラッドラムが総督就任。CMS が 3 名のドイツ人宣教師をシエラレオネに派遣
- 1807
- イギリスが奴隷貿易を非合法化。奴隷貿易の取締りが強化。シエラレオネ会社理事がアフリカ人の「文明化」によって奴隷貿易を廃止することを目的としたアフリカン・インスティテューション (African Institution) 創設
- 1808
- T・P・トンプソン (T. P. Thompson) が直轄植民地の初代総督就任。レスター (Leicester) など奪還奴隷 (Recaptured Negro) のための集落の建設に取り組む
- 1.1
- シエラレオネがシエラレオネ会社の植民地からイギリス直轄植民地 (Crown Colony) となる。人口 2000 人
- 1810
- E・H・コロンバイン (E.H. Columbine) が総督就任
- 1811
- 奴隷船から解放されてフリータウンに上陸した奪還奴隷数がこの年までに計 1991 名となる。フリータウンの人口急増。奴隷貿易に関与した者を重罪に処すことをシエラレオネの裁判所に認める奴隷重罪法がイギリス議会通過。C・W・マックスウェル (C.W. Maxwell) が総督就任
- 1812
- キシ (Kisi) 出身とみられる奪還奴隷のグループが、廃墟と化したグランヴィル・タウン近くの丘の上にキッシー・タウン (Kissy Town) という集落をつくる
- 1813
- イギリス海軍がセント・ポールズ川にあるイギリス人の奴隷貿易商館を破壊

- し、200人以上の奴隷を解放。イギリス海軍がリオ・ポンガスにある商館を攻撃
- 1814 CMS がレスター山南東部の土地を入手し、奪還奴隷児童の教育訓練のためにクリスチャン学校 (Christian Institution) 開校。チャールズ・マッカーシー (Charles MacCarthy) が総督就任。ウィリアム・クーパー・トンプソン (William Cooper Thompson) が内陸部での紛争の原因と通商拡大への方策を調査するためにティンボ (Timbo) に派遣される
- 1815 ポート・ロコ (Port Loko) をスス人のブリマ・コンクリ (Brima Konkuri) から奪還するためにテムネ秘密結社が結成される。のちにポート・ロコは奪還されて、テムネ人の町となり、モリバ・キンド・バングラ (Moriba Kindo Bangura) が首長となる
- 1816 コンゴ (Congo) 地域出身と思われる解放奴隷のグループがマルーンの女性から土地を購入し、コンゴ・タウン (Congo Town) をつくる。刑務所完成。アイルランド人の商人ジョン・マッコーマック (John McCormack) がシエラレオネに定住し、木材輸出を始める。やがて、木材は奴隷に代わる主要な輸出品となる。エドワード・ビッカーステス (Edward Bickersteth) が CMS からシエラレオネに派遣され、マッカーシー総督と会見。総督は CMS に学校運営や聖職者による礼拝を行うように要請し、CMS は植民地を拠点に活動することを確認。年間 2545 人の解放奴隷がフリータウン上陸
- 1817 外国の奴隷船を拿捕して奴隷を解放することへの違法判決が続いたため、イギリス海軍によって解放された奪還奴隷数は年間 603 人に激減。8 つの教区が設置され、CMS が宣教師や教師を派遣。イギリスがスペイン、ポルトガルと条約を結び、西・葡両国が奴隷貿易を非合法化 (ただし、葡は赤道以北の奴隷貿易のみ非合法化) したことで、イギリスは奴隷貿易に関わっている疑いがある両国の船を拿捕できるようになる。これに伴い、スペイン政府は損害に対する弁償金として 40 万ポンド、ポルトガル政府は 30 万ポンドをそれぞれイギリスから受領
- 1818 オランダと同様の条約を結ぶ。アメリカ植民協会 (American Colonization Society) の使節がフリータウンに到着
- 1819 関係国の弁務官から成る混成委員会裁判所 (Court of the Mixed Commissions) がフリータウンの港に設置され、拿捕された奴隷船関係者の審判を行う。5 つの教区が新たに設置される。フリータウンにおけるクル (Kru) 人人口が 500 人を超す
- 1820 アメリカ植民協会によって 88 名の入植者がシエラレオネに到着
- 1821 スペインの弁務官がフリータウンを去る

- 1822 ヨルバ (Yoruba) 人の解放奴隷が増加。しばしばアク (Aku) と呼ばれる
- 1824 マッカーシーがゴールドコーストに渡り、戦死。CMS の教育方針に不満を抱く政府が学力向上のために学校運営に乗り出すことを模索
- 1825 首長モリバ死去
 スティーブン・ガビッドン (Stephen Gabbidon) とウィリアム・ヘンリー・サベイジ (William Henry Savage) がモリビア (Moribia) 王であるフォレカリア・アムーラ (Amura of Forekaria) にマタコン島 (Matacong Island) の借用を申し込む。ポルトガルの弁務官がフリータウンを去る。
 チャールズ・ターナー (Charles Turner) が総督就任。チョーカー (Chaulker) 家とクレブランド (Cleveland) 家の紛争が続くなかで首長ジョージ・チョーカー (George Chaulker) がターナー総督に仲介を依頼
- 1826 カフ・ブルム (Kafu Bulom) のジョージ王 (King George) 死去。ニール・キャンベル (Neil Campbell) が総督就任
- 1827 4.4 のちフーラー・ベイ・コレッジ (Fourah Bay College: FBC) になるクリスチャン学校がフーラー・ベイに再建される
- 1828 オランダの弁務官がフリータウンを去る。CMS がバサースト (Bathurst) グロスター (Gloucester) リージェント (Regent) に学校開校。ディクソン・デナム (Dixon Denam) が総督就任。A・フィンドレイ (A. Findlay) が総督就任
- 1829 フェルナンド・ポー島 (Fernando Po Island) で黄熱病に感染した船員がフリータウンに上陸し、同病がヨーロッパ人系コミュニティに広がる
- 1830 クエーカーのハンナ・キラム (Hannah Kilham) がチャーロット (Charlotte) に女子学校を開校
- 1831 イギリスがフランスと反奴隷貿易条約を結ぶ (1833 年)
- 1833 イギリスが大英国内の奴隷制を廃止する法令制定。O・テンブル (O. Temple) が総督就任。H・D・キャンベル (H.D. Campbell) が総督就任
- 1836 イギリス海軍は奴隷貿易に利用可能で、未売買の商品を積んだ船を拿捕し、フリータウンに曳航し始める。そうして押収された積荷は混成裁判所によって競売にかけられる。キャンベル総督がテムネとロコ (Loko) の首長と和平条約に調印。黄熱病が流行 (~1839 年)
- 1837 サベイジ死去。R・ドハーティ (R. Doherty) が総督就任
- 1838 ガビッドン死去
- 1839 3. のちに奴隷輸送船 *Amistad* に乗船することになる者を含む約 200 人の奴隷が西インド諸島へ向けて旅立つ
- 1840 ジョン・ジェレミ (John Jeremie) が総督就任

- 1841 フリータウンにおいて解放された奴隷数は年間 306 人
- 1842 フリータウンにおいて解放された奴隷数は年間 440 人。アメリカからの宣教師などがシェルブロ (Sherbro) で学校開校。メンディ・ミッション始まる。植民地初の民間新聞 *The Sierra Leone Watchman* 創刊。G・マクドナルド (G. Macdonald) が総督就任
1. 殺人と海賊行為の罪でアメリカで裁判にかけられ、その後無罪とされた、かつて奴隷輸送船 *Amistad* に乗船していた人々がシエラレオネに到着
- 1843 12. アク (ヨルバ) 人とイボ (Igbo) 人の間で住民抗争発生。CMS がグラマー・スクール開校。ガンビア (The Gambia) がシエラレオネ植民地から分離
- 1844 W・ファergusson (W. Fergusson) が総督就任
- 1846 N・W・マクドナルド (N.W. Macdonald) が総督就任
- 1847 黄熱病流行。リベリア共和国独立
- 1851 インフルエンザ流行
- 1852 A・E・ケネディ (A.E. Kennedy) が総督就任。トーマス・ジョージ・ローソン (Thomas George Lawson) が政府通訳となり、植民地政府と首長を結ぶ重要な役割を担うようになる
- 1853 イギリス議会が解放奴隷にも臣民資格を与える法案を可決。イギリス外務省がシェルブロに領事アウグスツス・ハンソン (Augustus Hanson) を派遣
- 1854 J・S・ヒル (J.S. Hill) が総督就任
- 1855 アクのモーゼズ・ヘンリー・デイヴィス (Moses Henry Davies) が週刊新聞 *The African and Sierra Leone Weekly Advertiser* を創刊
3. キリストにある統一ブレザレン伝道団 (Untied Brethren in Christ Mission: UBC) が 3 名の宣教師をシエラレオネに派遣。のちに職業訓練を重視した教育活動を展開。西インド諸島出身のウィリアム・ドラペ (William Drape) が週刊新聞 *The New Era* を創刊
- 1859 シエラレオネ出身のジェイムズ・アフリカヌス・ホートン (James Africanus Beale Horton) がエジンバラ大学医学部卒業。黄熱病流行
- 1862 S・W・ブラッコール (S.W. Blackall) が総督就任
- 1863 行政評議会 (Executive Council) と立法評議会 (Legislative Council) の設置を定めた憲法制定
- 1864 サミュエル・アジャイ・クラウザー (Samuel Ajayi Crowther) がイギリス国教会ニジェール川教区の主教に任命される。エドワード・ブライデン (Edward Wilmot Blyden) がリベリアの国務長官としてシエラレオネ訪問

- 1865 イギリス議会西アフリカ委員会が、西アフリカにおける英領植民地の非拡張、英領植民地の統合、シエラレオネを除いた究極的な撤退を答申した報告書発表。フランスが、かつてシエラレオネ植民地が条約を結んだリオ・ポンガスやリオ・ヌネズ (Rio Nunez) 川周辺などの首長と条約を結ぶ (~1866年)
- 1866 英領西アフリカの4植民地(ガンビア川、シエラレオネ、ゴールドコースト、ラゴス)が統合され、シエラレオネに首席総督 (Governor-in-Chief) が置かれる
- 1868 A・F・ケネディ (A.F. Kennedy) が総督就任
- 1870 1792年に入植してきたノヴァスコシアンのうち生存者は5名の老女のみとなる。この時期までに、イギリスからの初期入植者、ノヴァスコシアン、マルーン、解放奴隷といった区別がほぼ消滅する。クレオール文化が広がり始める
- 1871 フリータウン地区人口2万5930人、シエラレオネ半島人口3万8936人、シエラレオネ植民地人口3万8936人。フランシス・スミス (Francis Smith) がイギリスで法廷弁護士資格取得。のちにシエラレオネに帰国
- 1872 J・P・ヘネシー (J.P. Hennessy) が総督就任。サミュエル・ルイス (Samuel Lewis) がイギリスで法廷弁護士資格取得。のちにシエラレオネに帰国。黄熱病流行。実業家や職業専門家から成る原住民協会 (Native Association) 創設 (1885年にシエラレオネ協会に改称)。ブライデンがフリータウンから内陸部への鉄道建設を提案
- 1873 R・W・キーツ (R.W. Keate) が総督就任。G・パークレー (G. Berkeley) が総督就任
- 1874 ウェスレヤン・メソジスト宣教協会 (Wesleyan Methodist Missionary Society: WMMS) がメソジスト・ボーイズ・ハイ・スクール (Methodist Boys' High School) 開校。新聞 *The West African Reporter* 創刊
- 1875 C・H・コートライト (C.H. Kortright) が総督就任。M・H・デイヴィス (M.H. Davies) が新聞 *The Watchman and West African Record* を創刊。パーム核がシェルブロからドイツへ初めて輸出される
- 1876 FBC がダーラム大学と提携。ウィリアム・グラント (William Grant) が新聞 *The West African Reporter* を創刊。月刊新聞 *The Ethiopian* 創刊 (~1877年)
- 1877 サミュエル・ロウ (Samuel Rowe) が総督就任
- 1879 3. フランス軍がマタコン島上陸。のちに撤退
- 1880 WMMS がメソジスト・ガールズ・ハイ・スクール (Methodist Girls' High School) 開

- 1880 校
- 1881 フリータウン地区人口 3 万 2572 人、シエラレオネ半島人口 5 万 3862 人、シエラレオネ植民地人口 6 万 546 人。A・E・ハブロック (A.E. Havelock) が総督就任
- 1882 ウェスト・アフリカンホテル (West African Hotel) 開業
- 6.28 英仏両国の間でシエラレオネ植民地の影響が及ぶ北限をグレート・スカーシーズ川 (Great Scarcies River) とする条約が調印のみされる。マタコン島は仏領とされる
- 1884 ハブロック総督が、内陸で領土を拡大しつつあったサモリ・トゥーレ (Samori Touré) に対してイギリスの影響下にあるいかなる集落も攻撃しないように警告。黄熱病流行。新聞 *The Sierra Leone Weekly News* 創刊。マダム・ヨーコー (Madam Yoko) が植民地政府の支援でクパー・メンデ (Kpaa Mende) の王位に就く
4. ソファ (Sofa) とも呼ばれるサモリ軍がイギリスの警告を無視して商業拠点ファラバ (Falaba) を攻撃し、これに伴い、ソリマ (Solima) 王国の王マンガ・セワ (Manga Sewa) 自害。さらにサモリ軍は南下してビリワ・リンバ (Biriwa Limba) を攻撃
- 1885 サミュエル・ロウが総督就任。内陸部の紛争を解決するために保護領化を主張。フリータウンとロンドンがケーブルで結ばれる。これに伴い、総督は以前よりも本省に対して依存的となる
- 1880 年代後半シリア人商人がフリータウンに到着し始める。珊瑚を意味する「コラル」 (Coral) というニックネームで呼ばれるようになる
- 1888 ジェームス・ヘイ (James Hay) が総督就任。シエラレオネ植民地政府がサモリに使者を送る
- 1890 内陸部の治安維持のために準軍事組織であるフロンティア警察隊 (Frontier Police Force) 創設。首長と結んでいた従来の友好条約が無意味と判断したシエラレオネ植民地政府は、イギリスの承認なく外国との条約交渉に入ることを禁じた条約締結に動き出す
- 1891 フリータウン地区人口 4 万 326 人、シエラレオネ半島人口 5 万 8448 人、シエラレオネ植民地人口 7 万 4835 人
- 1892 フランシス・フレミング (Francis Flemming) が総督就任
- 1893 12. フランス軍がサモリ軍と間違えてイギリス軍を攻撃した、いわゆるワイマ (Waima) 事件が起きる。のちにフランスがイギリスに 9000 ポンドを賠償金として支払う
- 1894 フレデリック・カーデュー (Frederic Cardew) が総督就任
- 1896 サミュエル・ルイスがナイトの称号を受ける

1. 鉄道建設始まる
 8. フリータウン直轄植民地の後背地を保護領化する法令が発布。保護領はカレネ(Karene)、ロニエッタ(Ronietta)、バンドンジュマ(Bandanjuma)、パングマ(Panguma)、コイナドルグ(Koinadugu)の5つの行政区画に分けられる
- 1898 英領西アフリカ銀行(Bank of British West Africa)開業
- 1.1 カーデュー総督が保護領に小屋税(のちに一律一戸5シリング)導入
 - 2.~11. 保護領北部でバイ・ブレ(Bai Bureh)を中心に小屋税反対暴動発生
 - 3.19 メアリー・キングズリー(Mary Kingsley)が*Spectator*紙上で小屋税導入反対を訴える
 - 4.27 保護領南部で秘密結社ポロ(Poro)を利用した小屋税反対暴動発生。宣教師が殺害されたり、学校が破壊される
 - 7.18 デイヴィッド・チャーマーズ(David Charlmers)が小屋税暴動の原因とその解決策を調査するためにフリータウンに到着
- 1899 1. キングズリーが『西アフリカ研究』(*West African Studies*)を出版し、小屋税を批判
- 1900 C・A・キング=ハーマン(C.A. King-Harman)が総督就任。ロティファンク(Rotifunk)までの鉄道建設完了
- 1901 フリータウン地区人口4万5772人、シエラレオネ半島人口6万7782人、シエラレオネ植民地人口7万6655人。フロンティア警察隊が西アフリカ・フロンティア軍(West African Frontier Force)に統合される
- 1902 10. ボー(Bo)まで鉄道開通
- 1904 レズリ・プロビン(Leslie Probyn)が総督就任。政府が保護領にボー・スクール(Bo School)開校
- 1908 ペンデンブー(Pendembu)まで鉄道開通
- 1911 フリータウン地区人口4万4952人、シエラレオネ半島人口6万8115人、シエラレオネ植民地人口7万5572人。エドワード・メアウェザー(Edward Mereweather)が総督就任
- 1910 医師H・C・バンコール=ブライト(H.C. Bankole-Bright)がイギリスから帰国
- 1912 植民地政府における92の上級ポストのうちクレオール(クリオ)人は15を占めるのみ。カーデュー総督期以来、官僚ポストのヨーロッパ人化が進められ、クレオール人は次第に排除されていく
- 2.7 ブライデン死去
- 1916 R・J・ウィルキンソン(R.J. Wilkinson)が総督就任
- 1918 インフルエンザ流行

- 1919 7.15 鉄道労働者ストライキ。反シリア人・レバノン人暴動発生
- 1920 3. 英領西アフリカ国民会議 (National Congress of British West Africa: NCBWA) がゴールドコーストで創設される。シエラレオネからは実業家 F・W・ダヴ (F.W. Dove) とバンコール=ブライトが出席
- 1921 フリータウン地区人口 5 万 5569 人、シエラレオネ半島人口 7 万 9561 人、シエラレオネ植民地人口 8 万 5163 人
- 1922 ランスフォード・スレイター (Ransford Slater) が総督就任。NCBWA 大会がフリータウンで開催される。保護領の権利拡大を主張する「教育を受けた原住民委員会」(Committee of Educated Aborigines) 創設
- 1924 8. バンコール=ブライト出席のもと、ロンドンで西アフリカ学生同盟 (West African Students' Union: WASU) が創設される
11. 新憲法制定
- 1926 1.14 鉄道労働者ストライキ
- 1927 J・A・バーン (J.A. Byrne) が総督就任
- 1931 ダイヤモンド鉱発見。フリータウン地区人口 6 万 8821 人、シエラレオネ半島人口 9 万 168 人、シエラレオネ植民地人口 9 万 6573 人。ソソのムスリム指導者ハイダラ・コントーフイリ (Haidara Kontorfil) がイスラームへの改宗を人々に訴え、従わなければ殺害すると脅迫したために、やがて政府軍に殺害される。アーノルド・ホッドソン (Arnold Hodson) が総督就任
- 1933 鉄鉱石輸出始まる
- 1934 ヘンリー・ムーア (Henry Moore) が総督就任。シエラレオネ出身の I・T・A・ウォレス=ジョンソン (I.T.A. Wallage-Johnson) がゴールドコーストで西アフリカ青年連盟 (West African Youth League: WAYL) 創設
- 1937 ダグラス・ジャーディン (Douglas Jardine) が総督就任。英領ナイジェリアの原住民統治制度モデルが保護領に導入される。ウォレス=ジョンソンがシエラレオネに帰国
- 1941 ハーバート・スティーブンソン (Herbert Stevenson) が総督就任
- 1946 助言機関としての保護領議会 (Protectorate Assembly) 設置
- 1947 立法評議会におけるアフリカ人非政府議員枠や保護領割り当て議員枠の拡大を定めた通称スティーブンソン憲法草案が提案される。保護領の伝統的首長らは賛成したが、植民地のクレオールや保護領の知識人は首長の政治的発言力のみが強まるとして反発
- 1948 ジョージ・ベレスフォード=スツーク (George Beresford-Stooke) が総督就任
- 1950 保護領の利益を代弁するミルトン・マルガイ (Milton Augustus Margai) ら

の指導下でシエラレオネ人民党 (Sierra Leone People's Party: SLPP)
創設

8. 植民地クレオール¹の利益を代弁するバンコール=ブライトは、スティーブンス憲法が識字規定を設けていないために立法評議会での伝統的首長の発言権が拡大することを恐れ、それに反対するためにシエラレオネ国民評議会 (National Council of Sierra Leone: NCSL) 創設
- 1951 憲法が修正される。選挙で SLPP 勝利
- 1953 ロバート・ド・ズーシュ・ホール (Robert de Zouche Hall) が総督就任
- 1954 保護領の南部や東部でダイヤモンド・ラッシュの動き本格化。ダイヤモンド採掘人は推定で 3 万人にのぼる。クリオの弁護士である C・B・ロジャーズ=ライト (C.B. Rogers-Wright) が統一シエラレオネ進歩党 (United Sierra Leone Progressive Party: UPP) 創設。植民地と保護領の融和を説く
6. ブライアン・キース=ルーカス (Bryan Keith-Lucas) を委員長とする選挙改革委員会 (通称キース=ルーカス委員会) 設置。のちに段階的な参政権拡大を答申
- 1955 2. フリータウンで暴動発生
11. 増税に反対してポート・コロで暴動
- 1956 モーリス・ドーマン (Maurice Dorman) が総督就任
- 1957 5.3 選挙で SLPP 勝利。選挙結果の詳細は第 3 節の選挙の項を参照
- 1958 憲法改正
- 9.2 アルバート・マルガイ (Albert Michael Margai) らが人民国民党 (People's National Party: PNP) 創設
- 12.12 バンコール=ブライト死去
- 1959 FBC がシエラレオネ大学 (University of Sierra Leone: USL) となる
- 1960 4.20 ~ 5.4 ロンドンでシエラレオネ独立に向けた会議開催
- 7.9 ミルトン・マルガイが初代首相に就任
9. 全人民会議 (All People's Congress: APC) がシアカ・スティーブンス (Siaka Probyn Stevens) を中心に創設される

2 . 独立以降 (1961 年 ~ 1990 年)

年 月日

- 1961 4.27 シエラレオネ独立
- 1962 5.25 議会選挙で SLPP が勝利したものの、APC が野党第一党として議席拡大。選挙結果の詳細は第 3 節の選挙の項参照

1964	フリータウン市長選挙でスティーブンスが当選。シエラレオネ銀行創設。 新通貨レオネ導入
4.28	ミルトン・マルガイ死去。異母弟のアルバート・マルガイが首相に就任
1967 2.	クーデター計画発覚。のちにアルバート・マルガイ首相はギニアと防衛 協定を締結
3.17	選挙で APC 勝利。選挙結果の詳細は第 3 節の選挙の項参照
3.21	デイビッド・ランサナ (David Lansana) 准将による軍事クーデター
3.23	軍・警察幹部が支配権を握り、国家改革協議会 (National Reformation Council) を設置して、ジャクソン・スミス (Jackson Smith) 准将が 議長就任
1968 4.18	軍事クーデター。のちに、スティーブンスを首相とする APC=SLPP 連 合政権が樹立される
1970 9.	統一民主党創設
9.11	ダイヤモンド産業国有化
10.8	統一民主党非合法化
1971 3.23	ジョン・バングラ (John Bangura) 准将を中心とするクーデター未遂 事件。のちに、ギニア部隊が治安維持のために派遣される
4.19	共和国に移行、スティーブンスが大統領に就任
1973 5.11	総選挙で APC が圧勝。選出議席 85 議席中、APC84 議席、無所属 1 議 席
10.	シエラレオネとリベリアがマノ川同盟 (Mano River Union: MRU) 創 設で合意
1975 5.28	西アフリカ諸国経済共同体 (Economic Community of West African States: ECOWAS) 条約調印
1976 3.26	スティーブンスが大統領に再選
1977 2.	学生らによる反政府デモ。総選挙。APC が勝利。選出議席 87 議席中、 APC72 議席、SLPP15 議席
1978 5.	一党制を規定した憲法が議会を通過。APC のみの一党制国家となる
1980 年代	緑の書研究クラブ (Green Book Study Club) やパン・アフリカンクラ ブ (Pan-African Club: PANAFU) といった政治的な志向性が強い学生 諸組織が各地の高等教育機関に現れる
1980	アフリカ統一機構 (Organization of African Unity: OAU) サミットが フリータウンで開催される
10.25	ギニアが MRU 加盟
1982 5.1	総選挙。一党体制下の選挙のため、APC が選出議席 85 議席すべてを占

- める
- 1984 1. FBC で学生デモ
- 1985 FBC がリビアと関係をもつ過激な学生として 41 名を退学処分
8. 軍司令官であるジョゼフ・サイドゥ・モモ (Joseph Saidu Momoh) 少将がスティーブンスの後継者に指名される
- 10.1 大統領選挙。モモが得票率 99.9% で大統領に選出される
- 11.19 USL がモモに名誉博士号を授与
- 11.28 モモ大統領就任
- 1986 3. クーデター計画が発覚。60 人以上が逮捕される
4. 第一副大統領フランシス・ミナ (Francis Minah) らが逮捕され、反逆罪で起訴される
- 5.30 選挙。APC が選出議席 105 議席すべてを占める
- 10 ミナを含む 16 名に死刑判決
- 1987 シエラレオネ人の反政府活動家がリビアのベンガジで軍事訓練を受ける (~ 1988 年) 。そこで訓練を受けた者の一部がのちに反政府勢力シエラレオネ革命統一戦線 (Revolutionary United Front of Sierra Leone: RUF) の核となる
3. クーデター未遂
11. 給料不払いなどに抗議するデモが発生するなか、モモ大統領が非常事態宣言を出す。内閣改造
- 1988 シエラレオネ国軍の元伍長フォディ・サンコー (Alfred Foday Saymaba Sankoh) がのちにリベリア国民愛国戦線 (National Patriotic Front of Liberia: NPFL) の指導者となるチャールズ・テイラー (Charles Ghankay Jarkpana Taylor) と会う
- 1989 1. モモが APC 事務総長に再選される
8. モモ大統領が憲法改正を示唆
10. ミナら 6 名が処刑される
- 1989 11.28 内閣改造
- 1990 8.24 シエラレオネ部隊を含む西アフリカ諸国経済共同体停戦監視団 (ECOWAS Cease-fire Monitoring Group: ECOMOG) がモンロビアに到着
11. モモ大統領が国家憲法改正検討委員会の 30 人の委員を指名

